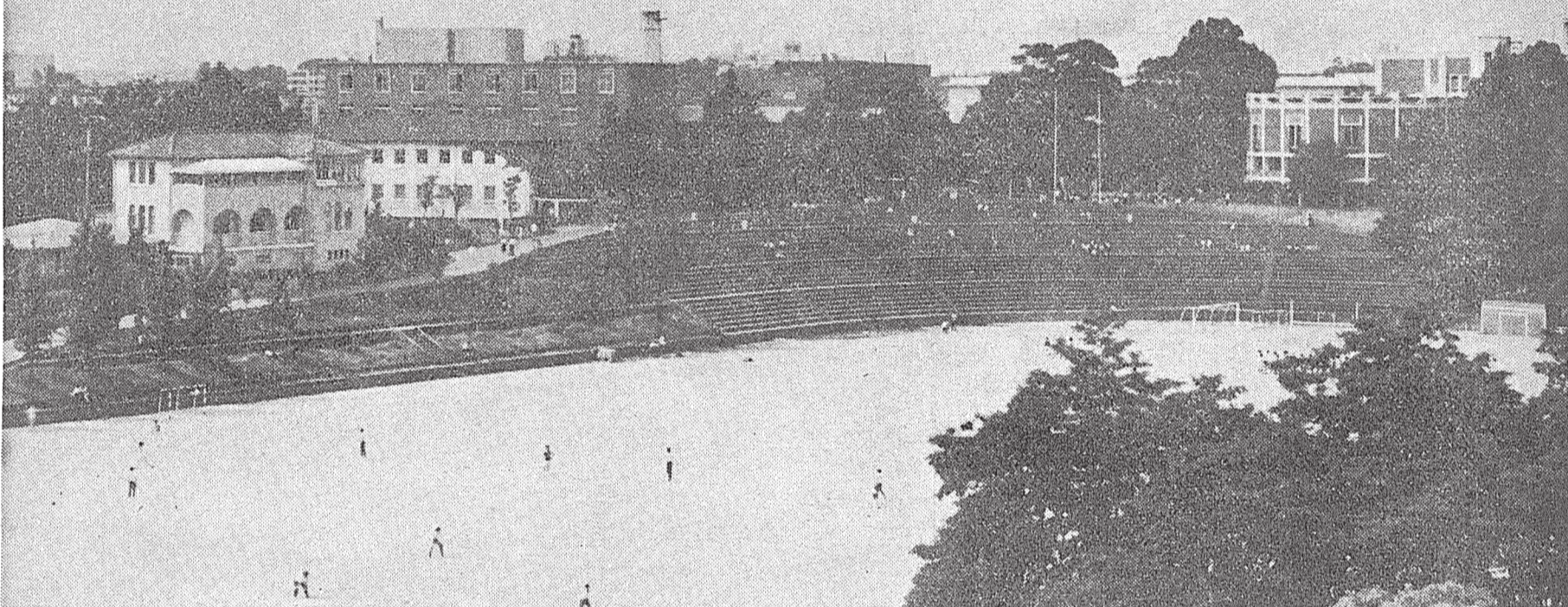


THE KANSAI UNIVERSITY NEWS

関西大学通信

関西大学広報委員会 大阪府吹田市山手町3丁目

学苑 人の魂を 花の香りを 人生の道を 学問の道 人生の道 人生の道 人生の道



志を問う

学長 大西昭男



文字は姓名を記せば足る。

地は中国、時は漢。項籍、字は羽、と言は諸君も存じの項羽の言葉。項羽は昔い時に文字すなわち学問を学んだが、その名ははたしていい、名前が記せば十分だと言った。その名も尺土の土地とて有る長身の一人として出で、時の勢いに乗じ、五諸侯を率いて秦を討つ、のち霸王と称した。四面楚歌の故事で知っている人も多いであろう。その人はさうに戦いの剣も不嬰、剣は一人の敵に向かうが、自分

大蔵を知った後は進んで学ぼうとはしなかった。だが始皇帝を避くため、「俺があいつに取って代わるのだ」と言ふ。要するに文字とか方法とかはどうでもいい、天下に王たらんと欲するその勢い、言い換えれば、志こそ重要としたのである。むしろ、項羽の生涯を顧み、時と地の隔たりを考へる時、諸君は項羽の言葉を文字通り受け取る必要はない。たゞその大いなる志を知って欲しい。諸君はいかなる志を胸に極め、こゝ関西大学に来たらんとするののか。

大学入試を受けようとする人にはかかる間の意味を考へる余裕とないかも知れない。諸君は今日の日が人生の一大事とも、甚しきに至っては人生の目的そのもの如く思う人もいよう。しかし、考へる欲しい。言い古された言葉ながら、人生には幾つかの節目があり、節目ごとに関を通過すべき一種の通過儀礼を経なければならず、その内には入試などというものも、人生における一つの儀礼の一つに過ぎない。この儀礼を天に言ひたい。儀礼を経たのち何をなすか、さらに人としていかに生きんとするか、これが大切であり、さればその文字なれば十分と言ふのだ。要するに志のいかんか、志の大なる者こそこの門前に迎えたい。大学が自分を導くのでなく、むしろ俺が大学を、この関西大学を導くのだ。さういふ志をもちたい。志をいれるべきだと言ふ程の気概である。みんなが受けるから自分も、みんなを受ければ足る。こゝの志は困る。項羽という人の天下統一、覇業の志の大なるに擬して諸君の志を問うた。確かに今日の入試は通過のための一小事に過ぎない。しかし、先程の言とは一見道に見え、小事なればと知ってその日に全善、全力、全善を傾けていたが、恰も獅子が一匹を握るに全力を尽くす如く一生懸命を言つて欲しい。小事に小力を以てせば、小事はついに小事に過ぎず、成功のあとすら後悔に運ぶ傾向がある。ならば今日の小事を「当面」の大事として扱われたい。成程、これ神のみぞ知る。

関西大学は明治十九年、大阪の地に関西法律学校として誕生した野の私学である。今日関西大学に何らかの縁あって受ける諸君は、この大学創立のいわば精神的大先輩の一人に別居離縁あることを知っておいて欲しい。あるいは「大津事件」を存じて欲しい。これは明治二十四年、滋賀県大津で、折しも来日中のロシア皇太子に斬りつけた一巡警の事件に始まる。その罪を不敬罪とするか、単に謀殺未遂罪とするか、時の最高司法裁判所たる大審院は選択を迫られた。行政権力からの強硬な圧迫に抗し、洗脱する議論に迷わされる。当時世界第一等の強國ロシア帝國からの無量の圧力にも動じぬで、大審院は三種分立を楯に司法権の独立を守り抜く。謀殺未遂事件として処理した。これはたんに司法に關する一事にとどまらず、ロシアが攻めてくるかも知れぬと恐怖感、いわばパニック状態に陥っていた当時の日本にあって、冷静的確然たる立身、勇気と熱意に満ちた大審院長権謀の識見と器量はずばり二世を抜き出るものであった。法の正義を守り、これによって國際信用を獲得させたのだ。すなわち、時はいま安政以来の平等が当たり前にあった時代であったことを考えれば、近代國家としての自立の地歩を築くに到った里程碑でもあった。將來への見通しと展望、國際政局への確かな見極めの上に立った決断であった。これは誰かが進言したか、この関であった。事に当たるに全善全力を以て、しかも大局からの見通しと正確な知識をもとに國際形勢を判断、決断したか、さういふ如く言ひたいのである。この不朽の功業をなした人間を先達の一人として、こゝに志を問うた。同時に、それを後進に必要とせよ。司法の一事に心を傾け、護法の神と称せられるとも当然ながら、当面の一事の努力を怠らなければ、その志はいつかは一國の志、受けついでと言ひたい。

以上おたつのはなしは、ある一事に対する一生懸命である。志、志、志の重要性のあつたものであり、決して諸君に罰金を垂れようとしているのではない。こゝで私の方から諸君一人ひとりに問いかけているのだ。こゝに来たらんとする諸君の胸の裏に何かある、志、志、志。



カリブ海沿岸諸國のなかでメキシコは、政治的に安定し経済的にも発展が目ざましい國だが、今なお夢と冒險の國であることに変わりがない。海底には巨万の金銀が眠り、荒野には銀やオパール投しの山師が徘徊し、町を歩くとジャガーが、そして熱帯魚の泳ぐ海から上がると珊瑚礁が待ち構えている。かつて十五世紀から十六世紀にかけてスペインでは騎士道物語が一世を風靡したが、その結果『ティラン・ロ・ブラン』、『アマティス・デ・ガウラ』等の傑作が生まれた。こゝした作品は航海時代当時のスペイン民衆の、未知なるものへの夢と冒險心をかき立てた。聖職者たちは聖書を片手に新大陸へ布教に赴いたが、コンキスタドル征服者は「勇士の本」騎士道物語を携えてつぎつぎとインディアスに渡って行った。真偽のほどははっきりしないが、イエズス会の創立者聖イグナチウスについて次のような逸話が伝えられている。彼は若い頃騎士道物語を愛読していたが、フランス軍との戦いで負傷し病床にあつたとき、大いに騎士道物語を注文したことがあつた。が、どうしたことが宗教書が届いてしまった。しかし、たゞそれを読んで眠るつづき、神に任せることは「聖なる騎士道」だといふ一節にまつた。この一節に感銘した彼は、騎士の身分をすて聖職者になる決意を固めた。もし騎士道物語が届いていたらと考えると面白いが、それはさておき、いま騎士道物語は、『緑の家』のバルガス・リョサや、『百年の孤獨』のガルシア・マルケス、といったラテンアメリカ文学の「花咲ける騎士たち」の熱い注目をあびて、復権しようとしてゐる。

入試実施にあたって

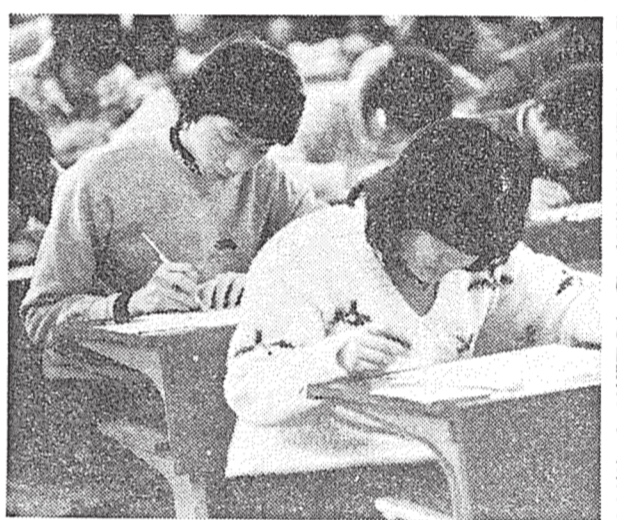
入試実行委員長 亀井 利明



本年より入試実施が、学生生活に大きな影響を及ぼす重要な場面です。関西大学は、創立以来、常に教育の発展に努めてきた歴史があります。特に、入試の場では、社会から優秀な人材を求め、その育成に努めてきました。本年の入試も、その使命をこらえて、学生生活に新しいページを開かせるための重要な試みです。

入試は、学生生活のスタートです。入学後の生活設計、学費の負担、アルバイトなど、様々な課題に直面することになります。しかし、入学後の準備は早くから進め、4年間の大学生活を有意義なものにするための準備を整えることが大切です。

合格発表は14・15日に行われます。合格者は、入学準備を進め、入学式に備えましょう。不合格者も、悔しさを糧に、今後の学習に励み、次の入試を目指してください。



試験問題について、試験官と学生が話し合っている様子。

受験生へのアドバイス

合格発表は14・15日

合格発表は、本学の合格者は、2月14日(土)午後2時から、不合格者は、2月15日(日)午後2時から、それぞれ発表されます。発表場所は、本学体育館です。

合格発表後、合格者は入学準備を進め、入学式に備えましょう。不合格者も、悔しさを糧に、今後の学習に励み、次の入試を目指してください。

入学後の準備は早く 4年間の生活設計

入学後の準備は早くから進め、4年間の大学生活を有意義なものにするための準備を整えることが大切です。学費の負担、アルバイトなど、様々な課題に直面することになります。しかし、入学後の準備は早くから進め、4年間の大学生活を有意義なものにするための準備を整えることが大切です。

学生部 短情報

学生部の活動について、短情報としてお知らせします。学生部の活動は、学生生活の充実を図るために進められています。

私の学生時代

50頁



読書三昧に明け暮れたあの頃

読書三昧に明け暮れたあの頃。高校生の頃から、本を読むのが大好きでした。図書館で時間を過ごし、様々な書物を読み、知識を吸収していました。読書は、私の学生時代の大きな支えとなりました。

私の学生時代の思い出。友人との交わり、夢への追求、成長の痛み。あの頃にはなかった、今の自分への感謝。読書を通して得た教訓、人生に活かすこと。私の学生時代は、充実したものでした。

愛着強い創設期

創設期には、先輩たちの情熱と努力がありました。彼らの背中を追い、自分も同じようになりたいと頑張っていました。創設期の学生生活は、大変ながらも、思い出の多い時代でした。

暗模索の学生時代

暗模索の学生時代。夢を追い求め、迷いながらも前進していった日々。試行錯誤を繰り返しながら、自分らしい道を見つけ出しました。あの暗模索の時代は、成長の大切な時期でした。

よき先輩との出会い

よき先輩との出会い。彼らの指導と励ましのおかげで、自分も大きく成長することができました。先輩たちの教訓は、今の自分を支えています。あの出会いがなければ、今の自分はいませんでした。

一冊の本との出会い

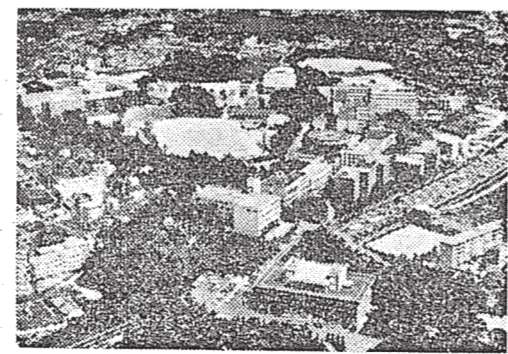
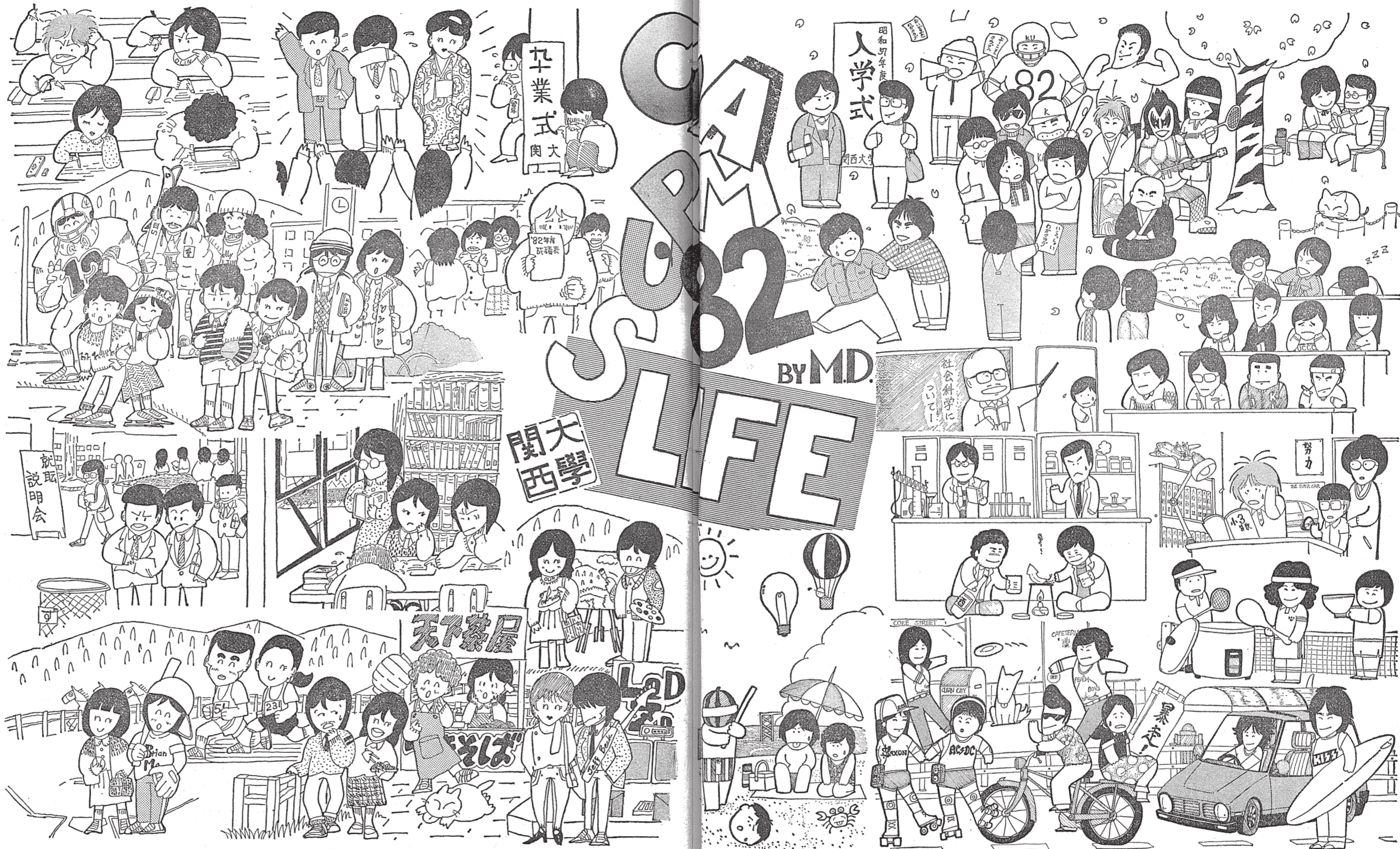
一冊の本との出会い。その本が、私の人生を大きく変えました。新しい視点から世界を見ることができ、人生の目的を見出すことができました。あの出会いが、私の人生の転機となりました。

読書三昧に明け暮れたあの頃

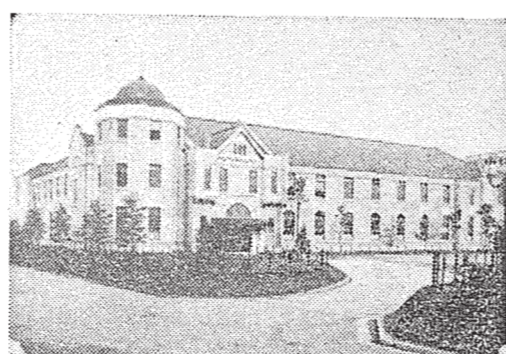
読書三昧に明け暮れたあの頃。高校生の頃から、本を読むのが大好きでした。図書館で時間を過ごし、様々な書物を読み、知識を吸収していました。読書は、私の学生時代の大きな支えとなりました。

石炭ストーブのある風景

石炭ストーブのある風景。冬の寒い日に、暖かいストーブの前で過ごす時間は、とても幸せでした。あの風景は、私の学生時代の大切な思い出の一つです。



現在の関西大学

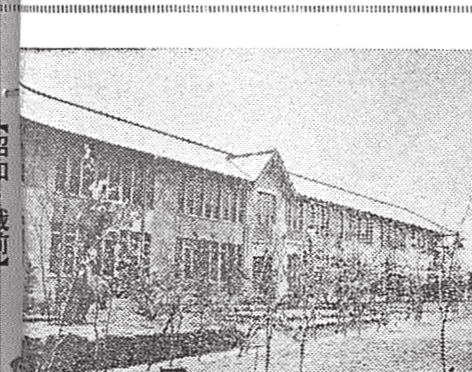


千里山学会本館。北浜5丁目にあった住友合資会社の社屋を受贈したもの

【昭和・戦前】

23・3・25 新関西大学認可法・文・経済・商の四学部発足。
 26・3・1 学長法人・関西大学に改組改称。
 33・4 工学部発足。
 42・4 社会学部発足。
 50・4 大学院設置認可による「博士課程の大学院」(組織改組)。
 57・2 在学生総数(第一)法・文・経済・商・社会・法(第二)法・文・経済・商・社会の五学部・大学院を合わせ約二、〇〇〇名。

20・8・15 股離結。
 18・12・8 1917年、関西大学を再建。
 16・12・8 大正洋館を再建。
 16・12・8 文部省に認可申請。
 8・12・1 文部省認可の「インポート」体制。
 4・9・15 天守閣落成。
 4・4 大学院発足。
 4・4 大正洋館落成。
 3・4 大学に法文学部を併設。千里山園建設完成。
 2・6・5 千里山学会本館(旧住友、現在の第一学舎建設のため取壊され)。
 2・6・5 大学に法文学部を併設。千里山園建設完成。



OBには思い出多い千里山予科校舎

【天正】

12・9 男女学制発足。
 12・4 9 法学部経済学部に併設。
 11・5 財団法人・関西大学改組。千里山学会、予科校舎が落成。現在の大学発足の場。
 11・5 大学に法文学部を併設。法文学部(法律学、政治学、社会学)併設。
 11・6・5 法学部(法律学、政治学、社会学)併設。
 11・6・5 男女学制発足。



創立当初の願宗寺校舎 (毎日新聞大阪本社提供)

【明治】

19・11・4 大阪府西成区願宗寺に関西法律学校を設立。
 24・5 大阪府北島郡(本学創立直前)大津市に願宗寺の土地を譲り、司法官の独立学舎。
 36・11・13 専門学舎に「法学部」を併設。
 37・8・5 経済学部を併設し、法政学部に併設。学制改組。
 38・11・6 社団法人・私立関西大学に改組改称。大阪府北島郡(本学創立直前)大津市に願宗寺の土地を譲り、司法官の独立学舎を併設。
 39・12 大阪府北島郡(本学創立直前)大津市に願宗寺の土地を譲り、司法官の独立学舎を併設。

関西大学の歩み

座談会

- 出席者
- 薄木 秀明 (神戸薬学部)
 - 中嶋 知子 (神戸文芸部)
 - 辻本 由美子 (神戸聴覚言語教育)
 - 松下 収夫 (神戸情報工学)
 - 森本 美由起 (神戸情報工学)
 - 山谷 青弘 (神戸聴覚言語教育)
 - 伊藤 昌子 (神戸聴覚言語教育)
 - 田下 恒夫 (神戸聴覚言語教育)
 - 平田 渡 (神戸聴覚言語教育)

本年度は、二年生が主体となり、座談会を開催された。座談会の趣旨は、各学生が自分自身の大学生活について、自由な意見を述べ、意見を交換し、大学生活の充実を図ることである。座談会は、座談会委員が司会を務め、各学生が自由に発言した。座談会は大いに盛り上がり、多くの意見を述べられた。座談会委員は、座談会の趣旨を達成し、各学生の意見を聞き取ることができた。座談会委員は、座談会の趣旨を達成し、各学生の意見を聞き取ることができた。

自主性ある大学生活

勉強するも堕落するも自分の意思

座談会委員の一人、中嶋知子氏は、座談会に参加した学生に、自主性ある大学生活を送るべきだと語った。中嶋氏は、座談会に参加した学生に、自主性ある大学生活を送るべきだと語った。中嶋氏は、座談会に参加した学生に、自主性ある大学生活を送るべきだと語った。

座談会委員の一人、山谷青弘氏は、座談会に参加した学生に、勉強するも堕落するも自分の意思で決めるべきだと語った。山谷氏は、座談会に参加した学生に、勉強するも堕落するも自分の意思で決めるべきだと語った。山谷氏は、座談会に参加した学生に、勉強するも堕落するも自分の意思で決めるべきだと語った。

座談会委員の一人、辻本由美子氏は、座談会に参加した学生に、大学生活を楽しむべきだと語った。辻本氏は、座談会に参加した学生に、大学生活を楽しむべきだと語った。辻本氏は、座談会に参加した学生に、大学生活を楽しむべきだと語った。

座談会委員の一人、松下収夫氏は、座談会に参加した学生に、大学生活を充実させるべきだと語った。松下氏は、座談会に参加した学生に、大学生活を充実させるべきだと語った。松下氏は、座談会に参加した学生に、大学生活を充実させるべきだと語った。

座談会委員の一人、伊藤昌子氏は、座談会に参加した学生に、大学生活を楽しく過ごすべきだと語った。伊藤氏は、座談会に参加した学生に、大学生活を楽しく過ごすべきだと語った。伊藤氏は、座談会に参加した学生に、大学生活を楽しく過ごすべきだと語った。

座談会委員の一人、田下恒夫氏は、座談会に参加した学生に、大学生活を有意義にするべきだと語った。田下氏は、座談会に参加した学生に、大学生活を有意義にするべきだと語った。田下氏は、座談会に参加した学生に、大学生活を有意義にするべきだと語った。

座談会委員の一人、平田渡氏は、座談会に参加した学生に、大学生活を充実させるべきだと語った。平田氏は、座談会に参加した学生に、大学生活を充実させるべきだと語った。平田氏は、座談会に参加した学生に、大学生活を充実させるべきだと語った。

座談会委員の一人、伊藤昌子氏は、座談会に参加した学生に、大学生活を有意義にするべきだと語った。伊藤氏は、座談会に参加した学生に、大学生活を有意義にするべきだと語った。伊藤氏は、座談会に参加した学生に、大学生活を有意義にするべきだと語った。

座談会委員の一人、田下恒夫氏は、座談会に参加した学生に、大学生活を有意義にするべきだと語った。田下氏は、座談会に参加した学生に、大学生活を有意義にするべきだと語った。田下氏は、座談会に参加した学生に、大学生活を有意義にするべきだと語った。

寮生活で甘えなくなる

勉強も生活も自分で決める

座談会委員の一人、山谷青弘氏は、寮生活で甘えなくなるべきだと語った。山谷氏は、寮生活で甘えなくなるべきだと語った。山谷氏は、寮生活で甘えなくなるべきだと語った。

座談会委員の一人、松下収夫氏は、寮生活で甘えなくなるべきだと語った。松下氏は、寮生活で甘えなくなるべきだと語った。松下氏は、寮生活で甘えなくなるべきだと語った。

関西大学

他の講義傍聴も楽し

学問はすべてつながりが

この学期の傍聴生は、学問のつながりを楽しむことができた。学問はすべてつながりが、他の講義傍聴も楽しむことができた。学問はすべてつながりが、他の講義傍聴も楽しむことができた。

この学期の傍聴生は、学問のつながりを楽しむことができた。学問はすべてつながりが、他の講義傍聴も楽しむことができた。学問はすべてつながりが、他の講義傍聴も楽しむことができた。

この学期の傍聴生は、学問のつながりを楽しむことができた。学問はすべてつながりが、他の講義傍聴も楽しむことができた。学問はすべてつながりが、他の講義傍聴も楽しむことができた。

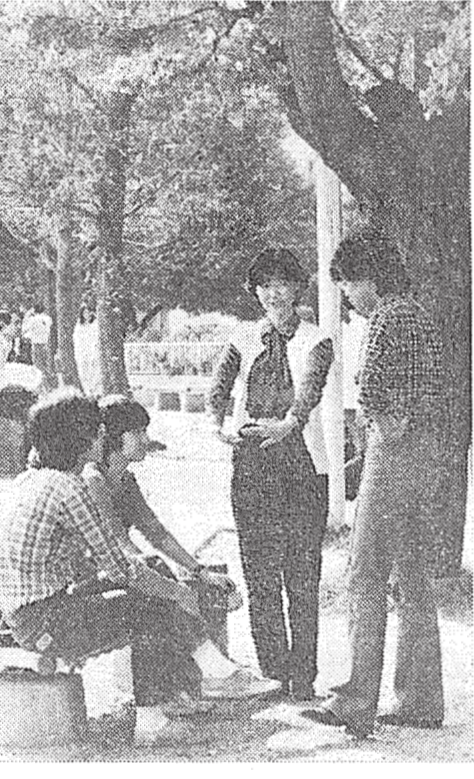
いい友といい先輩



いい友といい先輩、学問のつながりを楽しむことができた。いい友といい先輩、学問のつながりを楽しむことができた。いい友といい先輩、学問のつながりを楽しむことができた。



いい友といい先輩、学問のつながりを楽しむことができた。いい友といい先輩、学問のつながりを楽しむことができた。いい友といい先輩、学問のつながりを楽しむことができた。



この学期の傍聴生は、学問のつながりを楽しむことができた。学問はすべてつながりが、他の講義傍聴も楽しむことができた。学問はすべてつながりが、他の講義傍聴も楽しむことができた。

この学期の傍聴生は、学問のつながりを楽しむことができた。学問はすべてつながりが、他の講義傍聴も楽しむことができた。学問はすべてつながりが、他の講義傍聴も楽しむことができた。

この学期の傍聴生は、学問のつながりを楽しむことができた。学問はすべてつながりが、他の講義傍聴も楽しむことができた。学問はすべてつながりが、他の講義傍聴も楽しむことができた。

